

ソウルで香川県・愛媛県物産展を開催しました

ソウル事務所

ソウル事務所では香川県・愛媛県と協力し、2012年3月に「香川県・愛媛県物産展」を、韓国の有名デパートである新世界百貨店で開催しました。

1. 物産展の趣旨と開催まで

この事業は、韓国の著名な百貨店で物産展を開催することにより、香川県・愛媛県の様々な特産品を韓国に紹介し県産品の消費拡大の足掛かりとしようとするものです。両県から合わせて12社が出展し、「コロッケ、じゃこ天、青汁、わらびもち、かまぼこ、さつまあげ、日本酒、さぬきうどん、飴」などの商品を取扱いました。

物産展開催に先立ち、香川県・愛媛県では専門家による商談会が行われました。この席では商品进行评估しながら物産展でどう取り扱うかを決めました。韓国での販売価格はもちろん、売り方や韓国人の好む味付けなど、話し合いは細部にまで及びました。

2. 物産展の開催

両県のぼりを掲げ、はっぴを身にまとった販売員が待ち受ける中、香川県・愛媛県物産展は始まりました。韓国では近年健康志向が高まりを見せ、日本食は人気があります。しかし2011年3月の原発事故発生以降、韓国のお客さんが日本製品の安全性に敏感になっており、物産展に多く足を運んでくれるのか心配されました。しかし蓋を開けてみると会場は多くの人で賑わい、変わらぬ日本食の人気の高さが裏付けられました。特に日本からやってきた販売員の実演販売や試食には多くのお客さんが集まりました。ある販売員は、「試食をさせると売上が全く違うので、試食の時間帯を限定しないと最後まで量がもたない。」と言っていました。韓国のお客さんは実際に自分の舌で味わってみておいしいと思うと、すぐその場で購入する傾向が強いです。

3. 物産展開催の課題

2011年3月の原発事故発生以降、韓国政府は日本政府からの輸入検査を厳しくしました。また安全を証明するため日本側で取得すべき書類も発生し、輸出者である日本側の負担も増えるようになってしまいました。このため物産展のように開催日時が限定されている場合には、十分な余裕をもって輸出入の手続きに取りかかるとともに、正しい書類作成により通関に余計な時間をとられないよう心がける必要があると言えます。

4. これからの展開

今回の商談会では変わらぬ日本食品の人気の高さが裏付けられたと言えます。出展企業

は、物産展で肌で感じた韓国市場の反応を踏まえ、韓国に適した味、販売方法、価格を調整しながら韓国内での継続販売の可能性を考えていくことになります。2012 年度もこの物産展事業は続きます。



賑わう物産展の様子



試食に集まる人たち

(塚本所長補佐 秋田県派遣)

